

おはなし散歩道

# ねこの御見舞い

八王子市 池田 美絵

「ミーちゃん、具合が悪くて寝込んでいるらしいよ。」

お宮の縁の下をめぐらしている白ネコのミーが、ここ数日元気がないといううわさを聞いた茶トラネコのトラオが、白黒ネコのハチに打ち明けた。

「そりゃ、心配だー。ミーちゃんひとりぼっちで心細いだろうな。タンゴにも知らせなくちゃ。ハチは遊び仲間の黒ネコのタンゴを探し出して、ミーちゃんが元気がないことを伝えた。タンゴは神社の大杉の下で日向ぼっこをしていた。」

「ねえねえ、みんなでお見舞いに行こうよ」「そのときは、それぞれが自分の大切にしているものをお見舞い品として持っていくこと！ では、夕

方五時、賽銭箱の前で集合！」

トラオの提案に「よし、わかった！」「りようかい」と、ハチとタンゴはうなずいた。

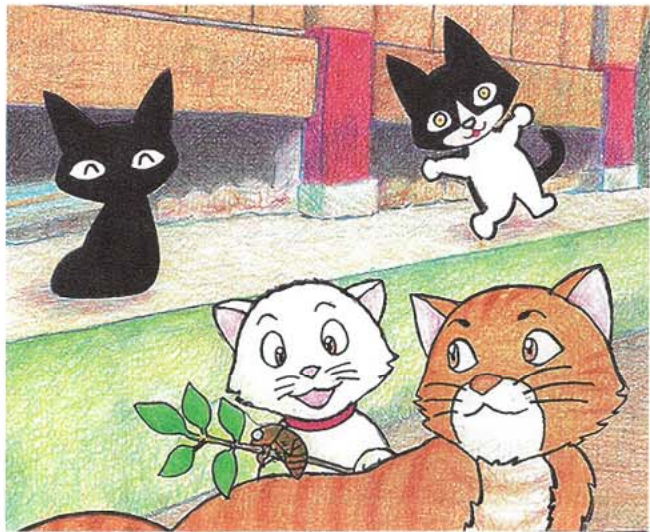
三匹のネコは、それぞれミーちゃんに何を持っていくかと思案する。ハチは、夏のあいだじゅう大事にしまっておいたツクツクボウシの抜け殻をミーちゃんのお見舞い品に決めた。こんなに大きなセミのぬげがらをも

らったら、ミーちゃんはきつと元気になる。ハチはにんまりした。トラオはトラオで「これしかないでしょ」と手を叩いた。神社の裏の敷にマタタビの木があるのを思い出した。ミーちゃんのためにマタタビの枝を枝折ることにした。そして、三匹の中で唯

一家で飼われているタンゴは、五歳の娘からもらった首輪を持っていくことにした。「フェルトでできた真っ赤な首輪、ミーちゃん似合うと思うな。」

三匹それぞれにミーちゃんが元気になることをいのりながら、約束の五時に集合した。ミーちゃんは、縁の下で丸くなっていた。やはり具合は良くないみたい。「ミーちゃん、大丈夫？」。心配になって尋ねるとミーちゃんは元気がなさそうにうなずく。おながが痛いそうだと。

すると他の二匹が持ってきたお見舞いの品を見たトラオが大声を出した。「ハチ、せみの抜け殻なんか持ってきてどうするの？ それで病気が治るかい？」「タンゴだってそうだよ、首輪なんかでミーの病気が良くなると思っているのか？。ものすごいけんまくで二匹を叱りつけた。しゅんとしていいるハチ



とタンゴ見て、ミーちゃん、悲しそうな顔でつぶやいた。「トラちゃん、けんかしないで」「お見舞いの品物ありますか。でも、私がうれしなのは、品物じゃなくてみんなが会いに来てくれたことよ」。ミーちゃんの言葉に一瞬、きよんとした三匹もやがて笑顔

になった。お見舞いに行こうと思った。お宮の縁の下から出られるようになった。四匹のネコたちは、今日も仲良く神社の境内で遊んでいる。

(挿し絵・小出 茂)

# 高尾山物語 8

## 御尊像の完成

絵・橋本豊治



七日、始めて成す。其像則ち夢見し所の如し。威霊赫々。見るもの毛起し。正視を得ず。

寛延の高尾山縁起より 『高尾山薬王院の歴史』 外山徹 十五頁

異人が炊谷に籠って飯糰大権現の御尊像を彫り続けて七日間の後、ついに完成しました。

その御尊像は、俊源大徳の夢に現れた御姿そのものであったそう、見るものを圧倒させる風格を備えていたということです。その御姿の様子とは、見るものが恐れ身毛もよだつような気持となり、正視するには堪えないというものです。

異人は御尊像を渡した後に姿を消し、どこへともなく去っていたということで、あたかも仏神の化身の如き存在であるかのようです。

御尊像はその後、俊源大徳により山中の祠に奉祀され、次第に信仰を集めるようになり、ついに高尾山薬王院の中興が成し遂げられました。

### 甘き判断

過信がもとよ

失敗のもと

注意して

## 智山専修学院生 来山される

十月三十日、真言宗智山派の僧侶育成機関である、智山専修学院より、二十三名の修行僧と引率の本山僧侶二名の総勢二十五名が参籠された。

一行は、関東三大本山巡りの二環として、成田山新勝寺・川崎大師平間寺を参拝の後、高尾山へ来山された。

翌朝の大護摩供修行に参加し、修行満足と学業成就を祈念された。その後、精進料理を頂き、下山された。



大玄関前において記念撮影